Love Potion 魔法のほれ薬 私がまだほんの小さな女の子だったとき When I was just a little girl, that my grandmother was a witch. 私は、祖母は魔女だと気づいた その当時は I was reading stories about Snow White and Sleeping Beauty 私は白雪姫や眠れる森の美女についての話を読んでいた and that's I learned about witches. そしてそこで私は魔女について学んだ My grandma was good to talk おばあちゃんはよい話し相手だった In many 多くの点で she was your 彼女はいわゆる典型的な祖母だった grandmother —she studied tai chi, 彼女は太極拳を習った and made and quilts. そして陶器類やキルトを作った But if she wants to me しかし、もし彼女が私をだまして信じ込ませたいなら believing she is not a witch, 彼女は魔女でないと she should her black cat. 彼女は彼女の黒猫を追い払うべきだ Only she can touch Satan, 彼女だけがサタンに触ることができる and that devil cat's green eyes are really そしてあの悪魔猫の緑色の目は本当に恐ろしい それはそうとして over the years 何年もの間 I got into the of going to see Grandma after school 私は放課後おばあちゃんに会いにちょっと立ち寄るのが習慣になっていた and telling her all my そして私の悩み事を彼女に全部話すこと I never her 私は決して彼女に知らせなかった that I knew her secret 私が彼女の秘密を知っていると and she didn't say anything そして彼女もまたなにも言わなかった But when I was in my second year in high school, しかし私が高校1年生のとき a problem. 私はある問題に出くわした It required a little magic to それは改善するにはちょっとした魔法が必要だった so I thought それで私は思った I'd ask her 私は彼女に率直に聞こうと "Grandma, are you a witch?" 「おばあちゃん、あなたは魔女ですか」 I said. 私は言った "Of course," 「もちろん」 彼女は言った she said. 「私は、あなたは知っていると思った」 you "Do you know 「あなたは知っているか 魔法をかけ、薬を作る方法を」 how to and make potions?" 「ときと場合による」 彼女は言った she said. "What's your mind? 「あなたはなにを考えているのか Is it a love potion you need? あなたが必要なのはほれ薬か エイミー、それについて私に全部話しなさい」 Tell me all about it, Amy." "Well." 「ええと」 私は言った I said, 「ねえ~のことだけど "you know

Reading 2

it's my Year 10 Formal in November,	11 月に高校 1 年生のダンスパーティーがある
and has me yet.	しかしまだだれも私を誘っていない
I'd really like to go with Stevo.	私は本当にスティーヴォと行きたい
You know him.	あなたは彼を知っている
He's always lived next door to us.	彼はずっと私たちの隣に住んでいる
But he goes out with all the popular girls at school	しかし、彼は学校の人気のある女の子全員とデートしている
and me just his sister."	そして私をただの妹だと思っている」
My grandma thought a minute	おばあちゃんはほんの一瞬考えた
then went into her bedroom.	それから彼女の寝室へ入った
She came back	彼女は戻ってきた
and put a <u>little</u> bottle of red liquid in my hand.	そして私の手に赤い液体の入った小さな瓶を置いた
"This will him,"	「これが彼を引きつけるだろう」
she said.	彼女は言った
"How can I him take it?"	「どうやって私は彼にそれを飲ませるのか」
"Oh,	「まあ
you're the one	あなただ
who has toit.	それを飲まなければならないのは
Three sips are you'll.	三口が、あなたが必要とするだろう唯一のことだ」
When will you see him next?"	あなたは次にいつ彼に会うだろうか」
"He's to my house tomorrow after school."	「彼はあしたの放課後に私の家へ来る」
"When he comes,	「彼が来たら
ask him in	彼に(家の)中へ入るよう頼みなさない
and take a sip of the magic potion.	そしてその魔法の薬を一口飲みなさい」
Then your shoes and go outside,	それから、靴を脱いで外へ出なさい
and jump up and down the path	そして道を行ったり来たりしなさい
for a minute or so	1分かそこらの間
on that pogo stick I gave you."	私があげたあのホッピングに乗って」
"He'll think I'm crazy.	「彼は私が正気でないと思うだろう
I can't do that."	私はそんなことはできない」
"Do you him take you to the Formal or not?	「あなたは彼にダンスパーティーに連れて行ってほしいのか、ほしくないのか
After that,	そのあと
come inside	中に入りなさい
and take sip.	そしてもう一口飲みなさい
Then	それから
let that lovely hair of yours	あなたのその素敵な髪をほどきなさい
out of that ponytail,	そのポニーテールから
brush it for two minutes,	それを2分間とかしなさい
and put a flower in your hair.	そして花を髪にさしなさい
After that	そのあと
sit on the floor	床にすわりなさい
and take the third sip."	そして三口目を飲みなさい」
"Will that	「それはうまくいくのか
He'll think I'm crazy."	彼は私を正気ではないと思うだろう」
"Just think positive,"	「ただ前向きに考えなさい」

said my grandma. "And the way, don't wear that old pair of jeans and that baggy shirt." Next day I was waiting for Stevo after school. I had on my new skirt and my new blouse. I opened the door, still not if I'd be able to with the plan. "Where are you to?" he asked. "Anyway I can't long." "It's OK," I said looking at my watch. "I've got plenty of time." And before I knew it the first sip. It tasted a bit like the medicine I when I was a little kid. "You sick or something?" he said. I just my new Mona Lisa smile and my shoes. "Just a sec." I said. up the pogo stick from the corner, went out the front door, and jumped up and down the for a while. I Stevo out the window at me

おばあちゃんは言った 「それからところで

あのいつものジーンズと、あのだぶだぶのシャツを着てはいけない」

次の日

私は放課後、スティーヴォを待っていた

私は新しいスカートと新しいブラウスを着ていた

私はドアを開けた

まだ確信がないまま

私がその計画をやり通すことができるかどうか

「あなたはどこかに行くのか」

彼は尋ねた

どっちみち

私はゆっくりできない

「大丈夫だ」

私は言った

時計を見ながら

「私は時間がたっぷりある」

そしていつの間にか

私は最初の一口を飲んでいた

それは少し私がかつて飲んだ薬の味がした

私が小さな子どものころに

「あなたは病気かなにかか」

彼は言った

私はただモナ・リザの微笑み(=これまでしたことのないような魅惑的な微笑み)を浮かべた

そして靴を蹴るようにして脱いだ

「ちょっと待ってください」

私は言った

私はすみに置いていたホッピングを取った

正面のドアから外へ出た

そしてしばらくの間道を跳ねて行ったり来たりした

私はスティーヴォが窓から私を見ているのを見た

困った表情で

私は中へ戻った

そして彼は言った

「あなたは大丈夫か」

"Course,"

with a

I went back inside

and he said,

"You all right?"

Lsaid

and took another sip.

Then

I started brushing my hair,

took one of Mom's flowers from the vase,

and put it in my hair.

「もちろん」

私は言った

そしてもう一口飲んだ

それから

私は髪をとかしはじめた

花瓶から母の生けた花を一本とった

そしてそれを髪にさした

"You seem this afternoon," 「あなたはきょうの午後は違って見える」 he said, 彼は言った looking at me 私を見ながら never me before. まるで彼は私を見たことがないかのように I put on my look 私はそしらぬ顔をした and, at my watch, そして時計を見ながら I knew that I 私は急いだほうがいいとわかった hurry, he'd be wanting to leave. でないと、彼は帰ってしまうだろう I took the last sip 私は最後の一口を飲んだ and sat on the floor near my CD player. そして CD プレーヤーの近くの床にすわった スティーヴォは立ち上がった Stevo got up and I suddenly saw myself そして私は突然いまの自分の姿を自覚した all but with no shoes, おしゃれしているが靴ははいていない hair all over the place, 髪はめちゃくちゃだ そしてそこに花をさしている and a flower in it. Oh dear, ああ だめだ it's no good, he's going, 彼は行ってしまう I thought. 私は思った I said, 私は言った "I 「あなたはもう行かなければならないだろう」 you have to go now." But しかしそうせずに 彼は近づいてきた he came over and sat down right beside me. そして私のすぐそばにすわった 「いいや "No. I've got of time 私にも充分な時間がある if you もしあなたにあるなら」 he said. 彼は言った